

平成29年度 全国学力・学習状況調査結果分析

摂津市立鳥飼小学校

1. 本校における分析方法

校内研修として、8月30日（水）に現在行っている本校の教育活動を評価し、『継続すべきものは継続』し、『改善すべきものは改善』することを目的に、全国学力・学習状況調査について分析を行った。

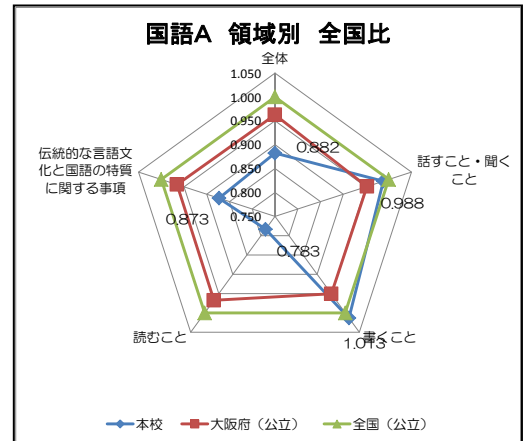
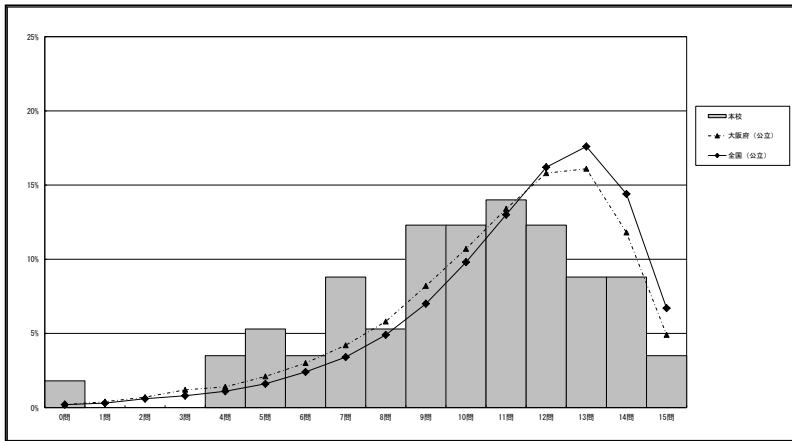
三委員会（学力向上委員会、生活指導委員会、人権委員会）を、各教科担当（国語：算数：質問紙 人数比率1：1：2）に分け、調査結果及び各資料（各教科経年比較グラフ、分析支援ツールグラフ（府）、学力向上プラン）から、成果や課題等（全国平均5pt 差で有意差、10pt 差で大きな有意差）を見つけ出し、課題やめざす姿（目標）、対応策について協議した。

協議した課題解決に向け、各委員会でのどのような取組みが考えられるか、また現在の本校の取組みにどのような改善が必要か（学力向上プラン等参照）など協議し、各委員会でまとめた内容を全体共有した。

今後、分析結果により明らかになった課題解決に向けて、再度各委員会で取組みを今年度中に試行実施することを前提に、具体的に協議し提案していく。

2. 本校における結果の概要

(1) 国語A



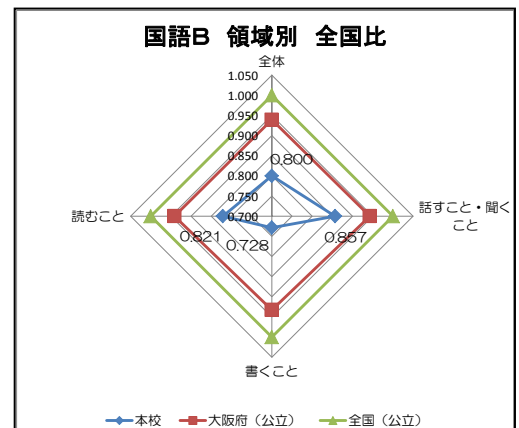
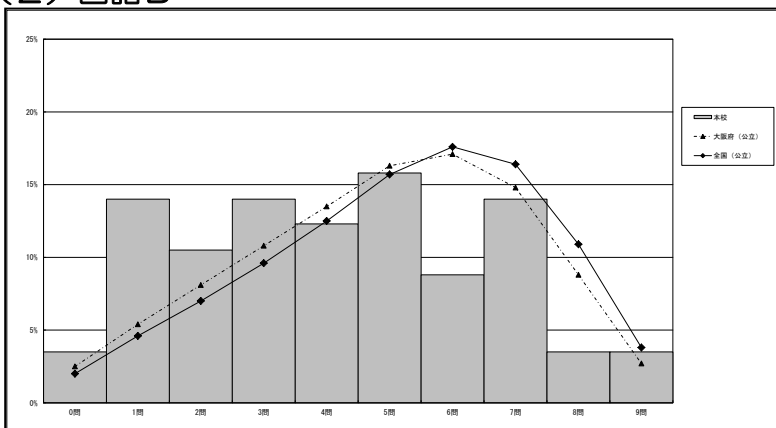
【状況】

- ◆正答数の分布は全問 15 問中、12 問（80%程度）以上正答している児童の割合が、全国平均より低く、正答数が5～9問（33%～60%程度）の割合が全国平均より高い。
- ◆「読むこと」について全国比（全国平均を1とする）が0.783と特に低い。目的に応じて文章の中から必要な情報を見つけて読むことに課題がある。
- ◆「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」について全国比0.873であり課題がある。俳句の情勢を捉えたり、ことわざの意味を理解したりすることに課題が大きい。

【分析・仮説】

- ◇語彙が少なく、自分の思いや考えを自分の言葉で書いたり話したりすることが難しい。機会があるごとに、自分の思いを書き示し、それを基に話し合う授業を意識的に設定する必要がある。
- ◇授業の中で、ことわざや慣用語に関する内容をフラッシュカードにしたり、調べ学習を行い、発表や作文を行う際に積極的に活用するなどして言葉に慣れ親しむ機会を設ける必要がある。

(2) 国語B



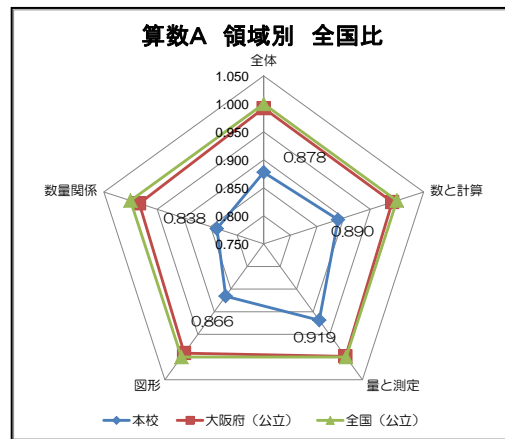
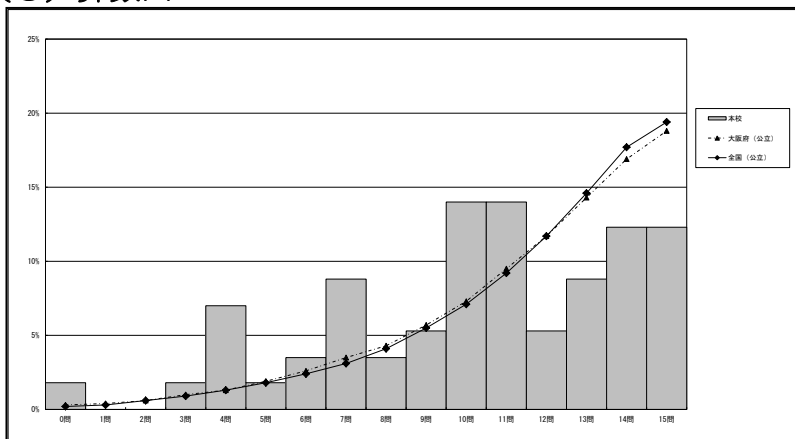
【状況】

- ◆正答数の分布は全問9問中、6問（60%程度）以上正答している児童の割合が全国平均より低く、正答数が2問以下（0～20%程度）の割合が全国平均より高い。
- ◆すべての領域において全国平均より低く、特に「書くこと」は全国比0.726と低く「目的や意図に応じて、文章全体の構成を考える」、「目的や意図に応じて、引用して書く」ことに課題が大きい。

【分析・仮説】

- ◇問題の文章量が多いことや、問題の形式（問題用紙、解答用紙が別）に慣れていないことから、最後まで読む前にあきらめたり、問題の趣旨を理解できていないようである。授業の中で、文章を読む経験を増やし、最後までやり遂げる経験を積ませることや、チャレンジタイムなどで教師が類題の解き方を教えるなど、児童が多様な問題を解く機会を設定する必要がある。
- ◇授業の中で、目的や意図に応じて自分の考えを書き記したり、話し合う機会を多く取り入れ、課題の趣旨を捉えることができる力を育成する必要がある。

(3) 算数A



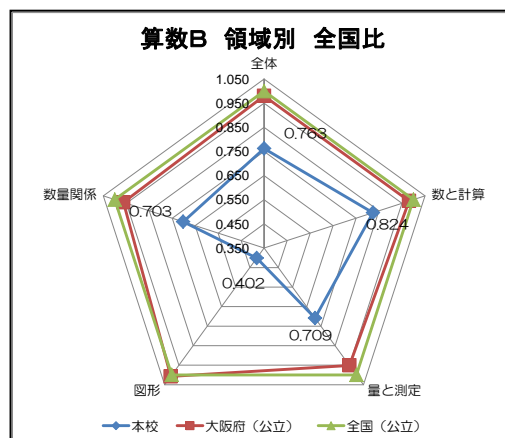
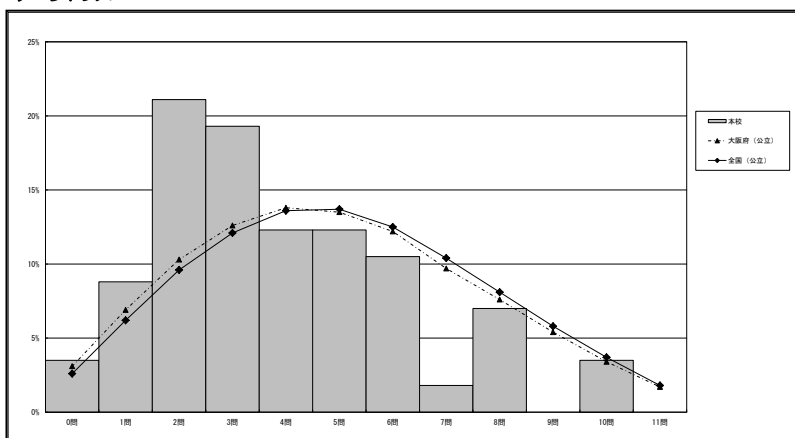
【状況】

- ◆正答数の分布は全問15問中、10～11問（67～73%程度）及び4～7問（26～47%程度）正答している児童の割合が全国平均より高い。
- ◆全領域全国平均より低い。「図形」は、全国比0.866と低く、図形の構成の理解や、立体の位置関係について課題がある。
- ◆また、「数量関係」も全国比0.838と低い。加法と乗法の混合問題や、二次元表の構成の理解について課題がある。

【分析・仮説】

- ◇基礎的・基本的な計算はできるが、加法と乗法が混合されると正答率が大幅に下がる。四則計算のルールが定着していない。既習内容を反復して取組み計算力をつける必要がある。
- ◇「図形の構成・立体の位置関係」については、普段の授業の中でなど具体物を用いた観察や操作活動を通して、図形の構成要素を説明することや平面上にかかれたものを立体図形として想像し、位置関係を指摘・説明する活動などを低学年から系統的に積み重ねることが必要である。
- ◇「二次元表の構成の理解」については、理科・社会などの他教科でも表やグラフなどの資料を活用した授業づくりを行っていくことで、まずは、資料を活用し、整理できるように経験させることが重要である。

(4) 算数B



【状況】

- ◆正答数の分布は全問11問中、4問（36%～）以上正答している児童の割合が全国平均より低く、2、3問（18%～27%程度）正答している児童の割合が全国平均より高い。低位層と中位層に偏った二極化が見ら

れる。

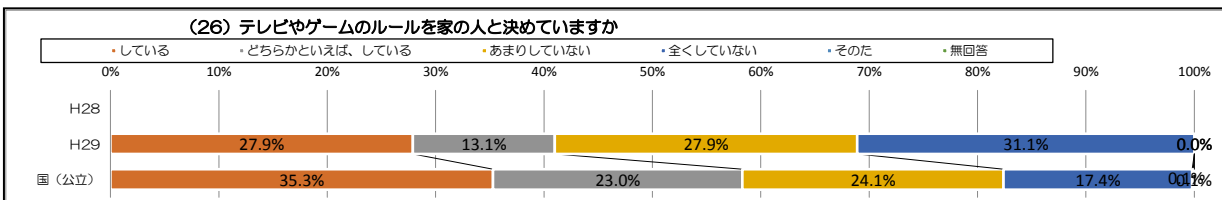
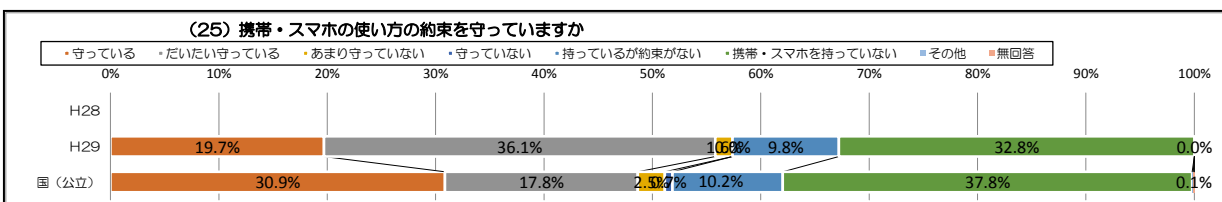
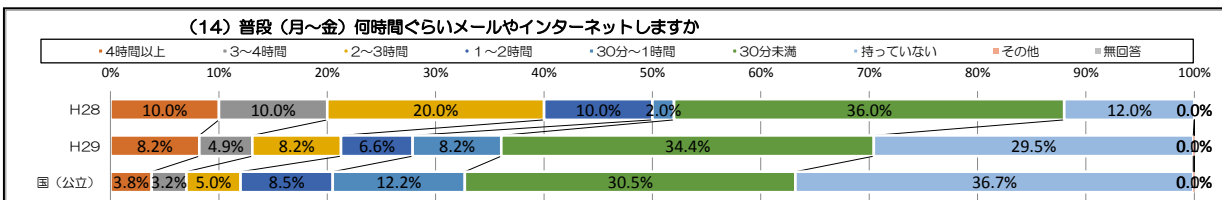
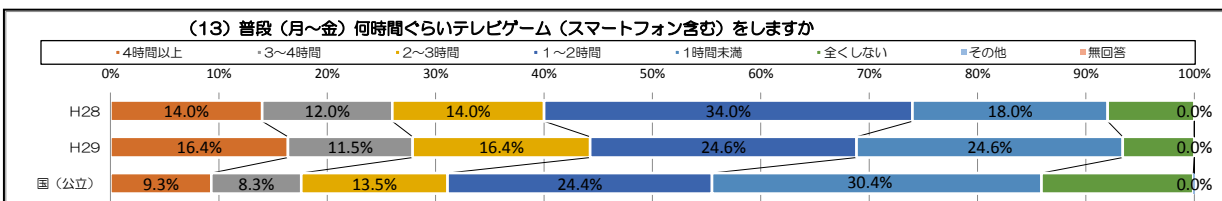
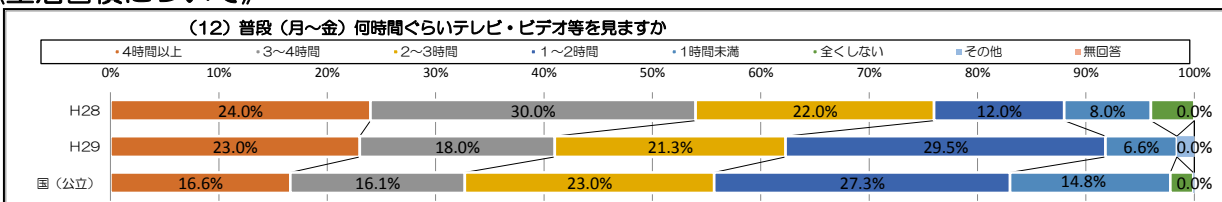
- ◆「数と計算」、「量と測定」、「図形」、「数量関係」すべての領域において全国平均を下回り、課題が見られる。
- ◆特に、「図形」「数量関係」では、全国比 0.402 と 0.703 と特に低く「身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量を判断しその理由を述べる」ことに課題が大きい。また、例示を参考に「仮の平均を用いた平均の求め方の記述」など、考え方を解釈し工夫して求めていくことにも課題がある。

【分析・仮説】

- ◇問題の文章量が多いことや、問題の形式（問題用紙、解答用紙が別）に慣れていないことから、最後まで読む前にあきらめたり、数々の情報の中から必要な情報を選択することができていないようである。小グループ（班活動）で教え合い学習を低学年から行い、授業の中で最後までやり遂げる経験を積ませたり、チャレンジタイムなどで非連続テキスト問題に触れ、解き方を学ぶ機会を設定する必要がある。
- ◇授業の中で、目的に応じ資料を収集しなおしたり、伝えたい内容をよりの確に伝えるために、グラフや表を活用（整理）したりする活動を意図的に取り入れる必要がある。
- ◇また、文章題などを答えを求める際に、文章と式を使って考えを説明する機会を設定したり、既習内容を使って（条件付けし）工夫を考えさせる機会を低学年から行う必要がある。

(5) 児童質問紙

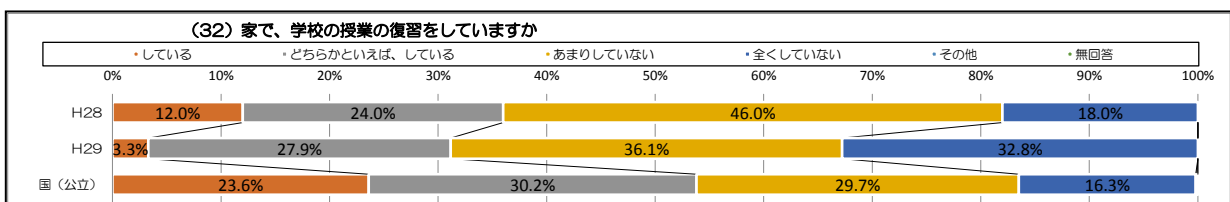
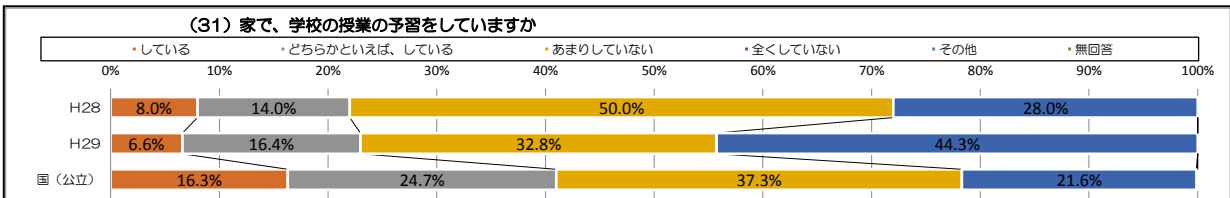
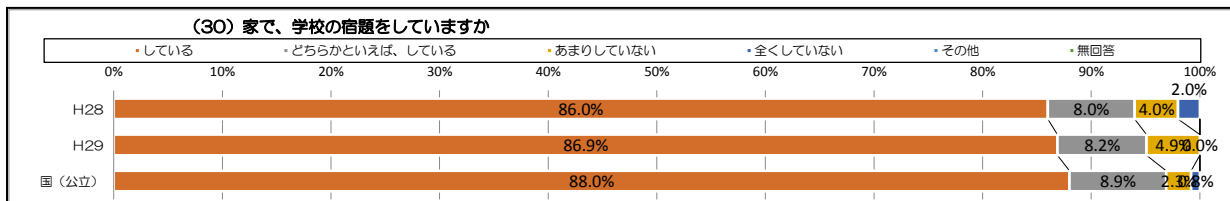
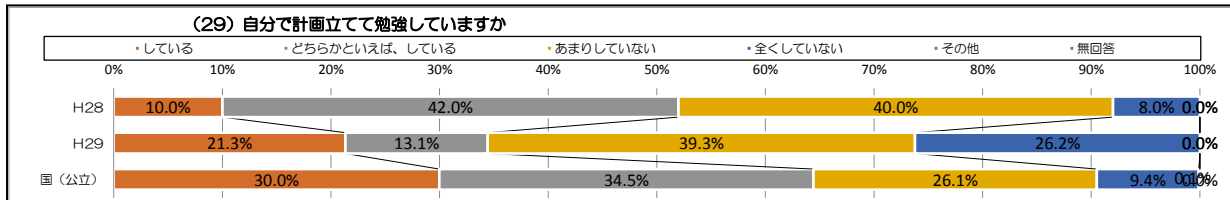
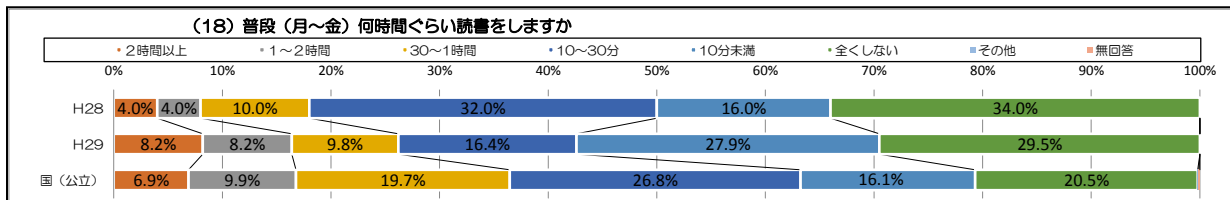
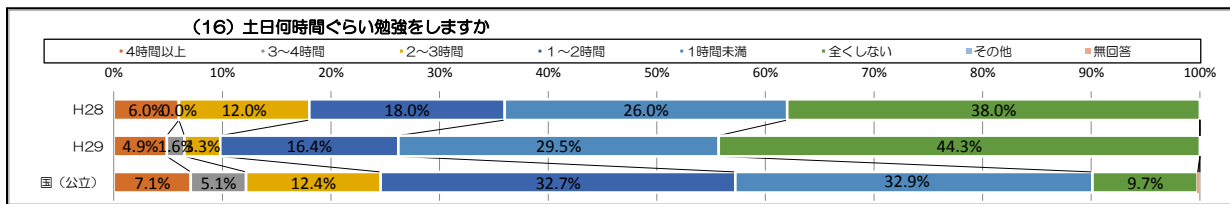
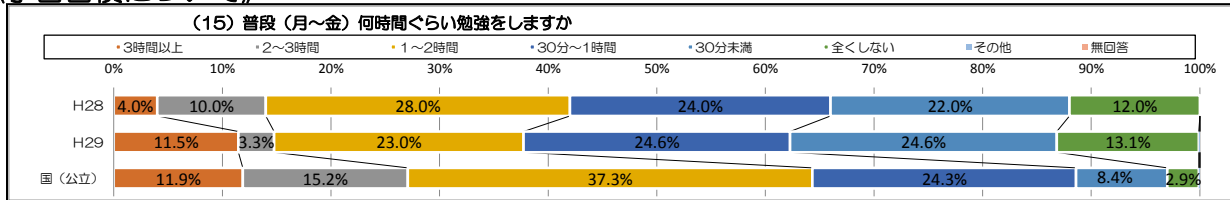
《生活習慣について》



【分析・仮説】

- ◇家庭での時間の過ごし方を見ても、テレビやゲーム、インターネット等で多くの時間を費やしている児童の姿が見られる。
- ◇学校と家庭で情報を共有することにより、携帯・スマホの使い方、テレビやゲームのルール等を話し合って決めている家庭も増えてきているように思われる。情報リテラシーや情報モラルについて、授業の中で扱い児童が直接学習したり、継続した保護者啓発を進める必要がある。

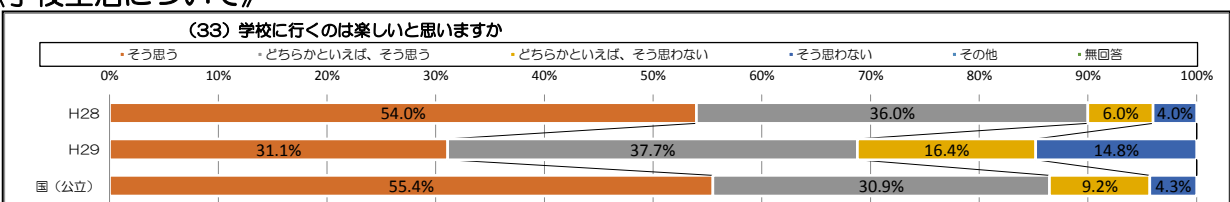
《学習習慣について》

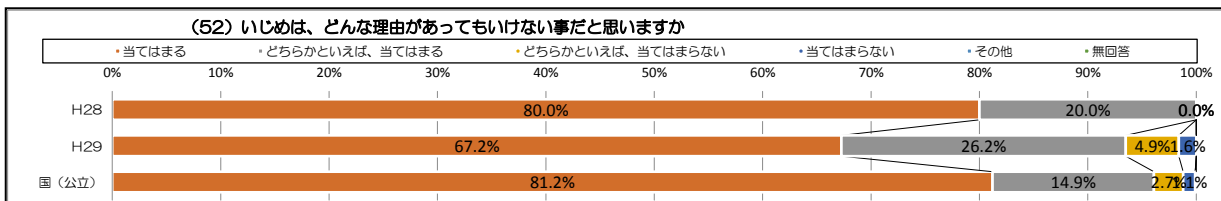
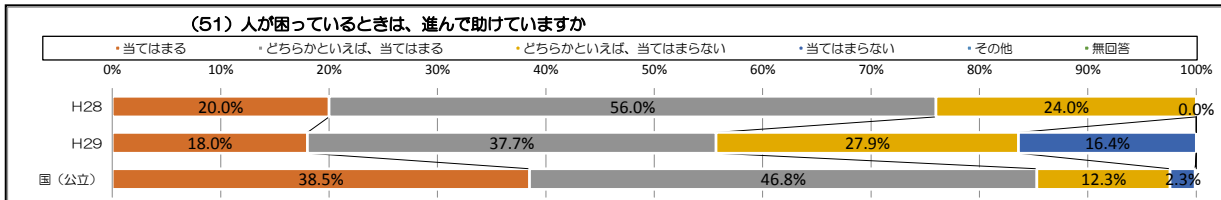
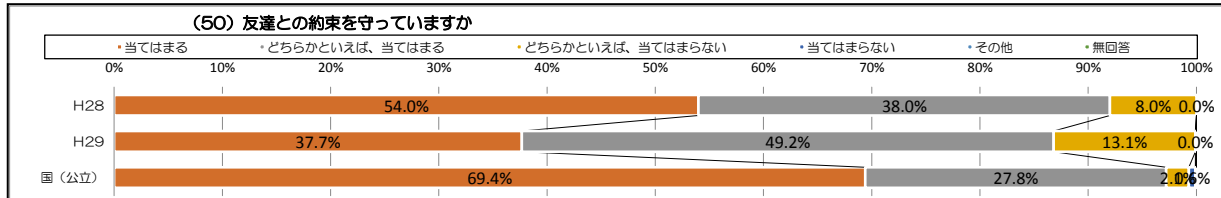
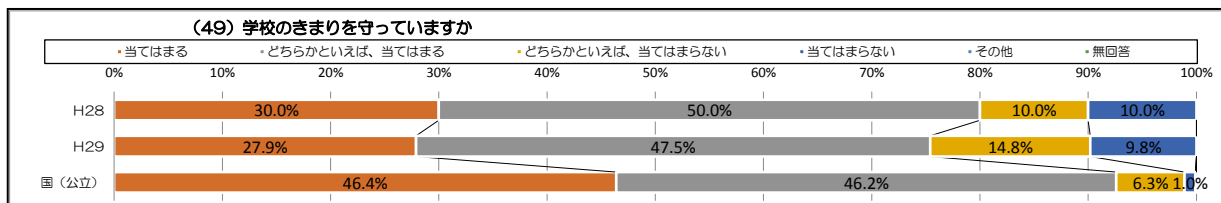
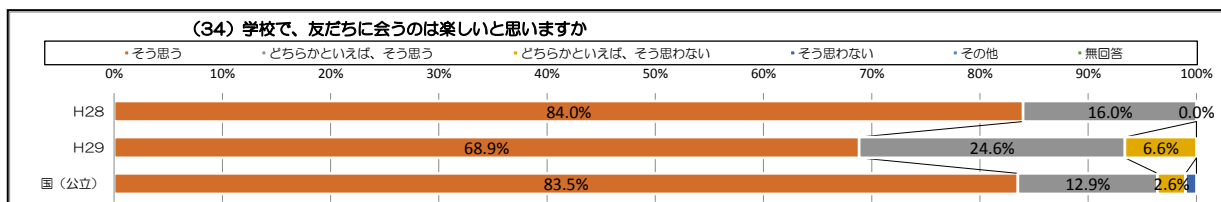


【分析・仮説】

- ◇家庭学習時間を平日 30 分未満、休日全くしない児童の割合が年々多くなっている。その反面平日 3 時間以上、家庭学習する児童や 1 時間以上読書する児童も増えている。
- ◇与えられた宿題はしているが、予習や復習をしたり、計画を立て学習をすることができない児童が増えている（二極化）ことがわかる。
- ◇学校と家庭が連携して、家庭学習の取組み方を共通認識したり、授業の内容につなげて家庭学習の課題を出すことで、児童一人ひとりの家庭学習を充実させる取組みなどが必要である。
- ◇自主学習の内容・量・方法などを、児童の発達段階を踏まえ系統的に取組み、計画的・自主的に学習することができる力を育成する必要がある。また、中学校に向け、単元テストに向けて計画的に復習する機会を設けるなどして、家庭学習を頑張ることで、学習成果を感じることができるようにしていく。

《学校生活について》

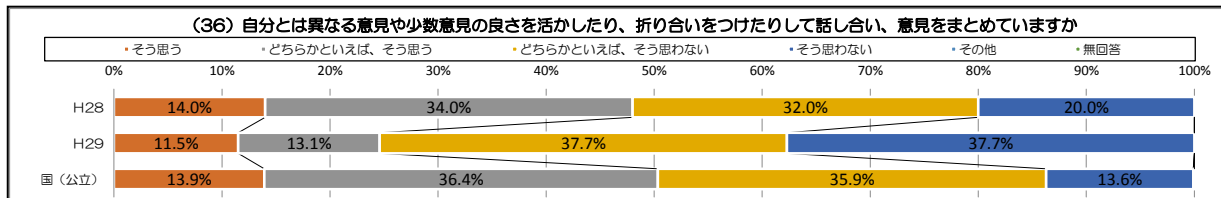
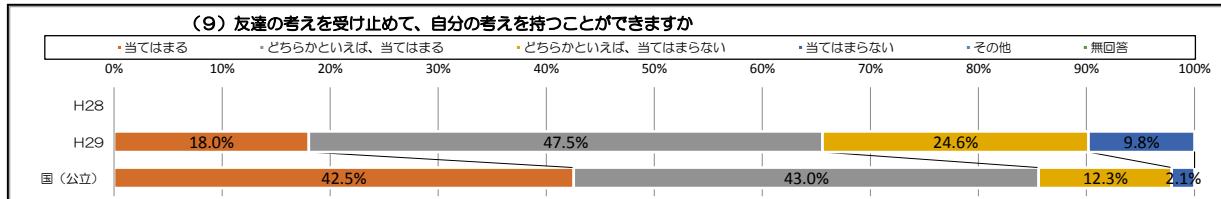
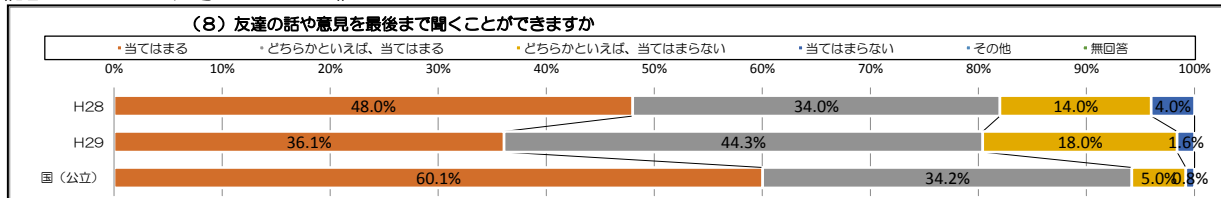


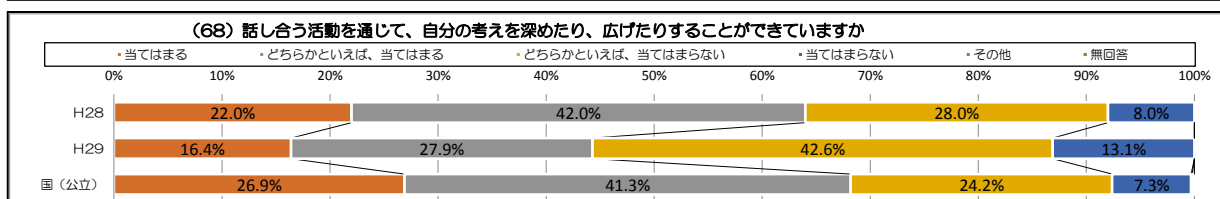
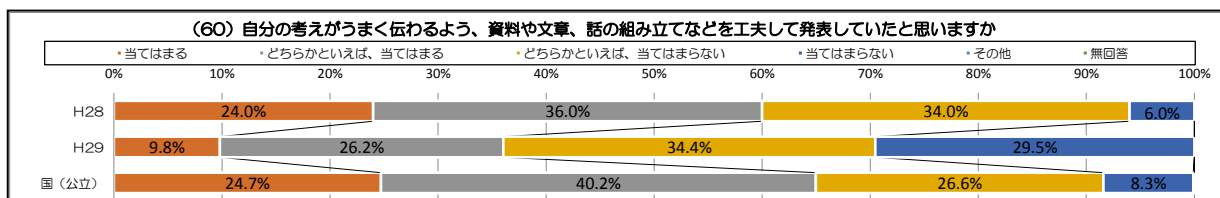
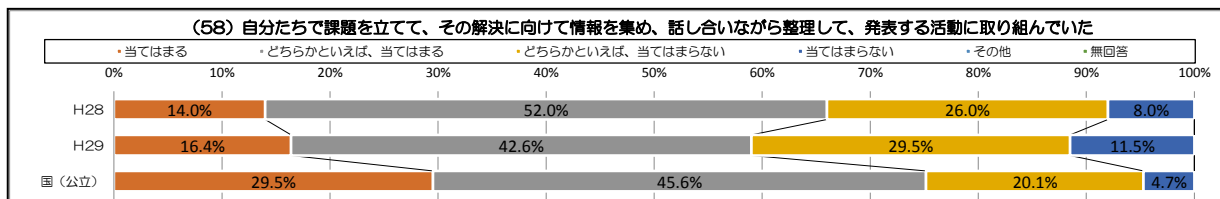
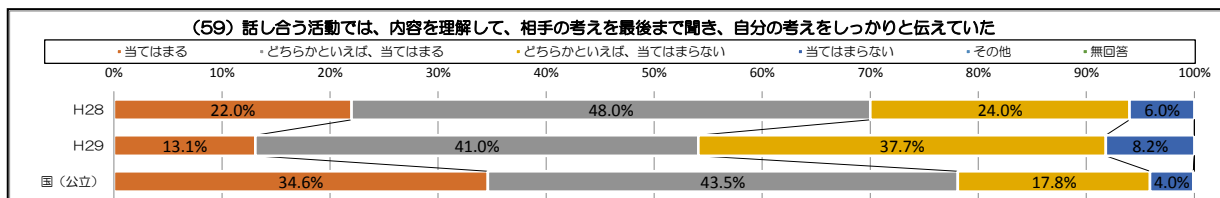


【分析・仮説】

- ◇友だち会うことや、学校に行くことが楽しいと答える児童の割合が減少している。
- ◇学校の決まりや、友だちとの約束を守りにくい児童がいる。困っている人がいても助けないと回答する児童や、いじめはいけないと強く言えない児童もおり、一部ではあるが学校生活の中で楽しいことを先行させ、自分勝手な行動する児童がおり、そのような中で学校生活をしんどく感じている児童がいるようである。
- ◇学校全体で児童一人ひとりの自尊感情を高める活動を取り入れ、一人ひとりが認められる経験を通して、人とのプラスの関わりを進んで行うことができるようにする必要がある。
- ◇学校生活の中で課題解決学習等を充実させ、大変な時には児童同士が助け合い、励まし合う活動を取り入れ、人間関係づくり、集団づくりを充実させる必要がある。
- ◇児童一人ひとりが安心して学校生活が送れるように、道徳教育やいじめ防止の学習を推進するとともに、アンケート調査等を活用し、組織的に早期発見早期対応を行い、いじめのない学校づくりを強化していく。

《話し合い活動等について》

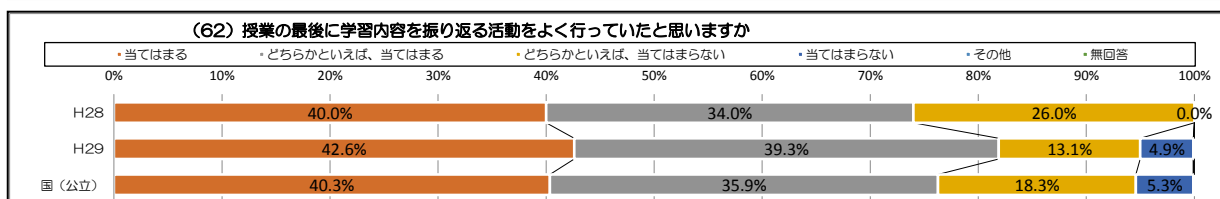
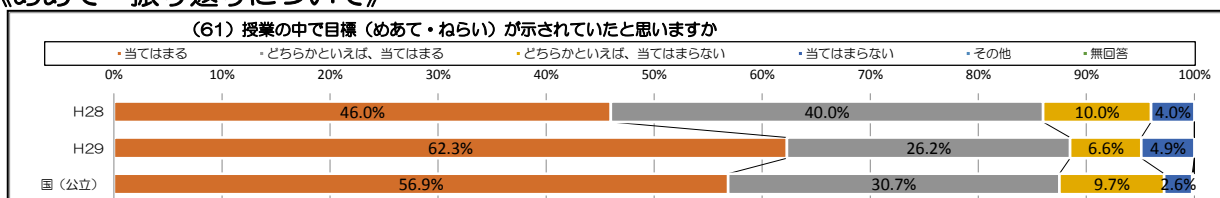




【分析・仮説】

- ◇話し合い活動の中で自分の意見を伝えることはするが、相手の意見や考えを最後まで聞いたり、それを受け止めて自分の考えを持つことが苦手な児童がいる。また自分と異なる意見や少数派の意見の良さを見つけ折り合いをつけることが難しい。
- ◇友だちの意見を踏まえ話し合い内容を深めたり、課題解決のために情報を整理することなどに課題がある。
- ◇特別活動(学級会)や道徳、総合学習の時間などで、話し合い活動を取り入れ、互いの意見を認め合う機会を設定し、情報や資料を活用し、根拠を基に意見を出し合い課題解決に向けて折り合いをつける経験を増やしていく必要がある。

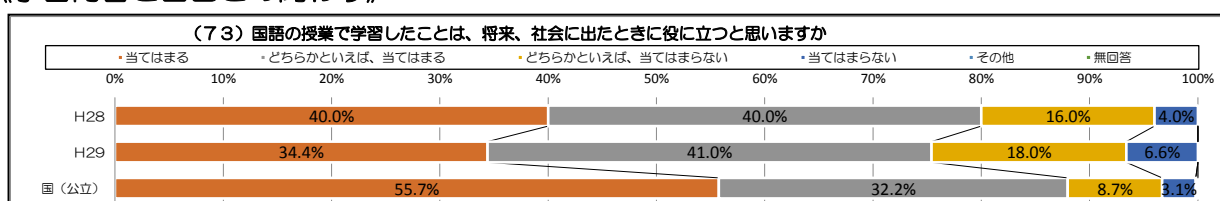
《めあて・振り返りについて》

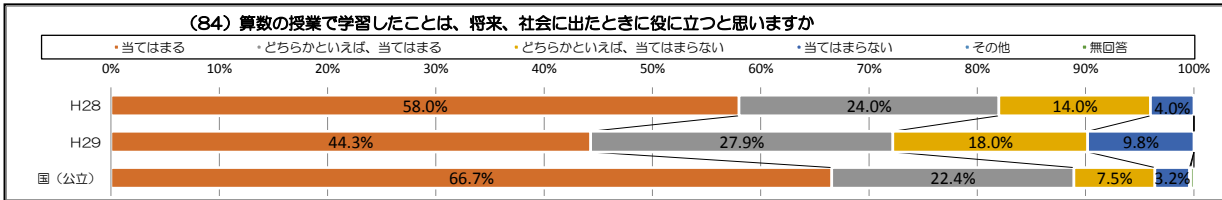


【分析・仮説】

- ◇『めあて』『振り返り』のある授業は、第五中学校区で小中連携して取り組んでおり、その成果が表れるものとなっている。授業の中でどんな力をつけるのか明確にした上で、授業展開を考えていく必要がある。
- ◇『振り返り』については、どの様な事(気づいたこと、わかったこと、思ったことなど)を振り返りとするのか、学校全体で共通認識を図る必要がある。

《学習内容と自己との関わり》

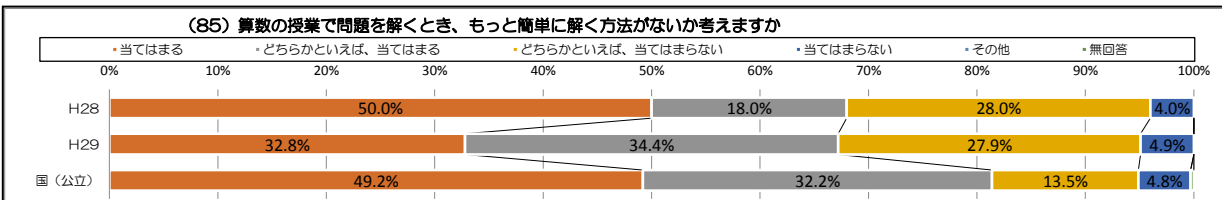
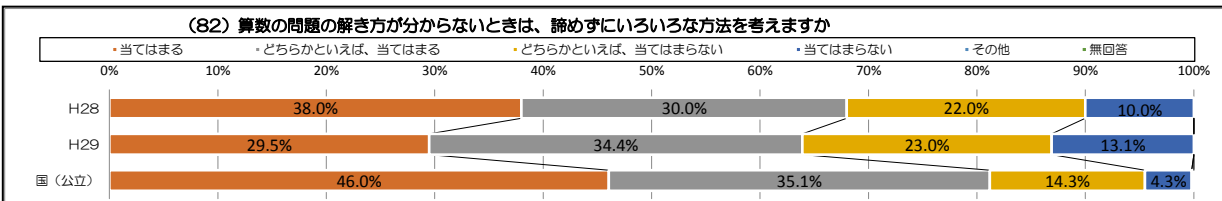
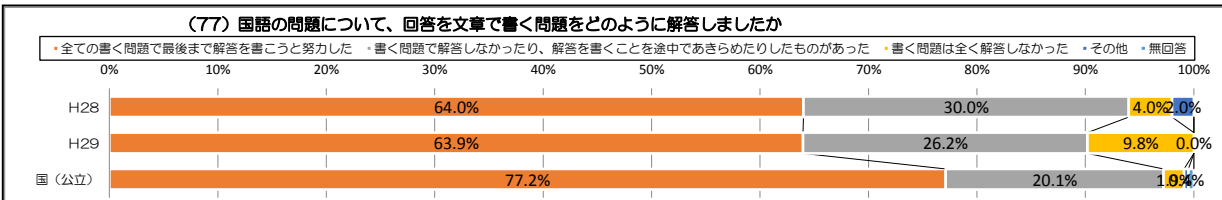
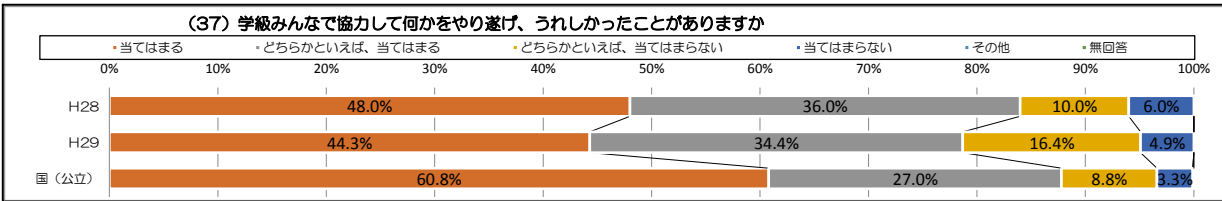
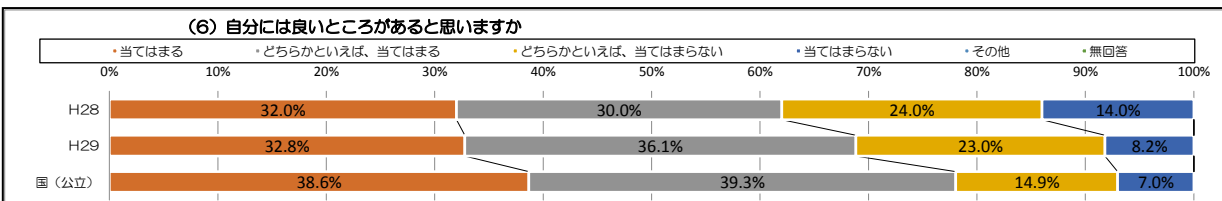
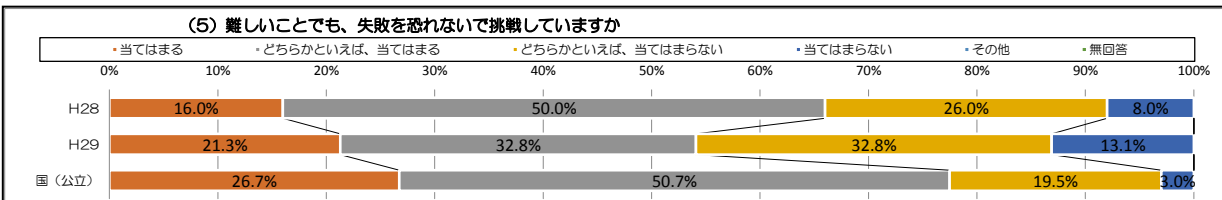




【分析・仮説】

◇学校での授業や学習内容は生活や将来に役立たないと思う児童が多いため、授業の中で自分の生活や将来に関わる内容を取り入れたり、自分の夢や生涯における自分の役割などを考える機会を設定したりするなどキャリア教育の推進が必要である。

《自己肯定感・モチベーション》



【分析・仮説】

- ◇難しい問題や書く問題などに直面した時に、いろいろな方法を考えたり、工夫をしたりすることをせずにあきらめる児童が多く存在し、無回答の多さにつながっていると考えられる。
- ◇課題解決の場面や学習活動の中で成功体験が少なく、自尊心・自己肯定感が低くなっている児童に対して、「できた」「わかった」経験を多く持たせ、最後までやりきらせる経験を積み重ねる必要がある。
- ◇授業の中で、難易度の高い問題・課題に取り組む機会を設定し、教師が解き方を教授したり、友だち同士で話し合い、励まし合いながら教え合う活動などを取り入れる必要がある。

3. 学力向上のための取組み

【全体】

- 学力向上プラン（市）や学校活性化計画（府）に基づき、取組み項目ごとの進捗確認・点検・評価を定期的に行い、PDCAサイクルを機能させた取組みを行う。〔継続〕
- 全国学力・学習状況調査及び摂津市学力定着度調査、各種アンケート調査などを活用し、成果や課題を見える化することで、共通認識のもと子どもの課題に正対した効率的な教育活動を全校教職員で行う。〔継続〕
- 今年度の研究テーマである『自ら考え、互いに高め合う子どもの育成』～伝え合い、深め合う授業づくり～のため、各学年模擬授業・研究授業をセットにした授業研究を実施し、教職員の授業力向上を図る。〔継続〕
- 子ども達が「わかった」「楽しい」と実感できる授業を目指した校内研究を実施し、ユニバーサルデザイン（板書の工夫、発問の仕方、話し合い活動）の視点を取り入れたわかりやすい授業を実践する。〔継続〕
- 全教職員が日々の授業を公開し参観する『鳥小アップあっぷウィーク！（相互授業参観）』を実施し、全教職員で全学級・全児童の状況（課題）を把握し、共通認識のもと生活指導など学校の課題解決を行う。また、研究テーマに沿った教職員の授業力・指導力向上につなげ児童の学力向上を図る。〔継続〕

【特設授業時間】

- 基礎的・基本的学力の定着を図るため、火・木曜日の朝にモジュールタイム（始業前の15分間）を設定し、データベースプリント（市）を活用した既習内容の反復学習などを行う。また、DREAMを月・水・金のモジュールタイムに実施し、外国語活動に慣れ親しむ。〔変更〕
- 全校で金曜日の1時間目をチャレンジタイム（隔週）とし、基礎的・基本的学習内容の活用力（いわゆるB問題を解ける力）をつけるための取組みを行う。また、全国学力・学習状況調査等で明らかになった課題や児童の実態や実際の取組み等を踏まえ、効果的な取組みになるよう定期的な検討を行う。〔継続〕
- 『昼休みウキウキタイム（学習広場）』を実施し、宿題や授業、モジュールタイム等の学習のやり残し等がある児童について、全教職員による少人数指導を行うことで、「あきらめずに、最後までやりきる子ども」を育成する。また、「e-ライブラリ」も活用した自主的に学ぶ機会を設定し、学習意欲の向上を図る。〔変更〕
- 3学期より、第5学年の対象児童に対し放課後学習広場を週に2回（火・木）実施する。算数の既習事項の復習を行うことで、基礎的・基本的学力の定着を図るともに全教職員で指導・評価する機会を設け児童の学習意欲の向上を図る。また、参加を希望する児童も受け入れ、学習意欲の高い児童と共に学習することにより、効果的な学力向上を図る。〔変更〕

【各学年授業内容】

- 漢字は各学年2学期までに配当漢字の指導を終了させ、その後は徹底的に反復学習を実施する。毎学期末には、漢字を定着させる取組みとして漢字相撲を家庭との連携のもと実施する。〔継続〕
- 各クラスで児童一人ひとりの学習実態を点検し、児童のつまづいている箇所を個別指導や反復学習を行い全児童の基礎的・基本的学力の定着を図る。〔継続〕
- 算数科において3年生から6年生を対象に習熟度別指導を実施する。各学年3分割または4分割して、少人数指導することで一人ひとりにきめ細かな指導を行い、学力向上につなげる。〔継続〕

【学習規律・生活規律】

- 学校全体で基本的生活習慣である『あしへそはい（挨拶、姿勢、返事、掃除、履物揃え、椅子直し）』運動に取組み、「当たり前のことを当たり前に行うことができる」子どもを育成する。〔継続〕
- 基本的生活習慣である『あしへそはい』や人のためや学校のため（利他）になる行動、行為をしている児童に『あしへそはい表彰』として表彰状を送り、良い行動を強化していき、認められる経験を通して、児童一人ひとりの自尊感情を高める。〔新規〕
- 学期ごとに児童及び教師にアンケート調査を実施し、教師の指導意識と児童の行動意識を見える化することにより、児童と課題を共有し学校全体で課題解決に向け取組みを実施する。〔継続〕

【家庭学習習慣】

- 第五中学校区で、学校と家庭が連携した『家庭学習ウィーク！！（家庭学習週間）』実施する。第五中学校の定期考査の期間に合わせて学習する内容をシートに記入し、毎日チェックすることにより計画的・自主的に学習できる力を育成する。学校と家庭がともに子どもたちの頑張りを認めることで、学習意欲と共に学力向上を目指す。〔新規〕